



第6回

変数のスコープ(4.7~4.10)

AJ科 宮川 治

# 概要1

- 変数のスコープ(有効範囲)
  - 変数名はキャメルケース
    - キャメルケース: 複合語の先頭を、小文字で書き始める。
  - 宣言後のブロック内でのみ有効
  - for制御文の初期化での変数の有効範囲は、条件、反復とfor制御文のブロック内となる。

# 概要2

- ブロックの入れ子に関して
  - 外側のブロックで宣言されたものは内側のブロックで有効
  - 内側のブロックで宣言されたものは外側のブロックでは有効ではない
- 振る舞い間での変数のスコープの独立
  - このことの結果から、引数の必要性の認識が高まる。
- 振る舞い(メソッド)のスコープ
  - public キーワードにより公開

# 設問1

- 変数名のキャメルケースの判断
- 振る舞いのキャメルケースの判断
- インデントミスの弁別
- スコープの問題
  - ソースコード(コンパイルは通る、エラー?)
    - メソッド間のスコープ
      - 同じ名前の変数を宣言
    - 入れ子のブロックでのスコープ
      - 外側と内側で同じ名前の変数を宣言
      - forなど

# [ 設問2 ]

## ■ メソッド間スコープの問題

```
public class A4_11 {  
    public static void main (String[] args){  
  
    }  
    public static void method (){  
  
    }  
}
```